

4-2 事業内容

目標を達成するために実施する各事業について示します。

基本方針 1 | すべてのひとの生活の質を上げる 公共交通ネットワークの形成

施策目標 1-1 骨格となる公共交通ネットワークの維持・改善

施策 1	伊賀鉄道の持続的な事業推進				
施策概要	鉄道事業再構築実施計画に基づき、安全運行及び経営改善に取り組みます。				
事業	① 鉄道事業運営の補助 ② 鉄道事業再構築実施計画の推進 ③ 安全安心で安定的な運行 ④ 鉄道施設の適正な維持管理				
事業主体	市民・地域	伊賀市	鉄道事業者	バス事業者	タクシー事業者 企業・関係団体等
		○	○		
スケジュール	事業番号	短期 概ね3年	中期 概ね5年	長期 10年以上	
	①	継続的に実施 			
	②				
	③				
	④				



伊賀鉄道

施策目標 1-1 骨格となる公共交通ネットワークの維持・改善

施策 2	バス路線の維持・改善				
施策概要	公共交通軸である既存バス路線のサービスレベルを維持するほか、伊賀市で定める見直し手順に基づき、全てのバス交通について持続可能な交通サービスに向けた改善に取り組みます。				
事業	① 公共交通軸である既存バス路線の運送サービスの維持 ② 見直し手順に基づき、全てのバス交通について持続性と地域のモビリティ向上の両面から改善検討				
事業主体	市民・地域	伊賀市	鉄道事業者	バス事業者	タクシー事業者 企業・関係団体等
		○		○	
スケジュール	事業番号	短期 概ね3年	中期 概ね5年	長期 10年以上	
	①	継続的に実施			
	②	状況を踏まえ随時実施			



三重交通路線バス

画像：三重交通提供



コミュニティバス「にんまる」



いがまち行政サービス巡回車

施策目標 1-2 都市間をつなぐ広域交通の強化

施策 3	J R 関西本線、草津線および近鉄大阪線のサービス維持				
施策概要	大阪・京都・奈良や名古屋都市圏、近隣市町村を結ぶ J R 関西本線、草津線、近鉄大阪線について、サービスレベルを維持していきます。				
事業	① 鉄道事業者及び沿線自治体との連携による利用促進 ② 関西本線活性化利用促進三重県会議の合意事項への取組み ③ J R 関西本線の電化・運行本数維持・接続改善への要望活動を継続 ④ 利便性確保のため運行本数維持等を鉄道事業者へ要請 ⑤ 駅でのサービスレベルの維持を要請				
事業主体	市民・地域	伊賀市	鉄道事業者	バス事業者	タクシー事業者 企業・関係団体等
		○	○		○
スケジュール	事業番号	短期 概ね3年	中期 概ね5年	長期 10年以上	
	①				
	②		継続的に実施		
	③	→			
	④				
	⑤				



関西本線活性化利用促進三重県会議の様子



関西本線沿線ウォーキングイベントの様子

施策目標 1-2 都市間をつなぐ広域交通の強化

施策 4	高速バス路線の維持				
施策概要	現在運行している高速バス「名古屋上野高速線」の利用促進を行い、路線維持に取り組みます。				
事業	① お得な乗車券などのPRによる利用促進活動の実施				
事業主体	市民・地域	伊賀市	鉄道事業者	バス事業者	タクシー事業者 企業・関係団体等
		○		○	○
スケジュール	事業番号	短期 概ね3年	中期 概ね5年	長期 10年以上	
	①	→ 継続的に実施			



名古屋上野高速線

名古屋上野高速線のチラシ

画像：三重交通提供

施策目標 1-2 都市間をつなぐ広域交通の強化

施策 5	隣接市町村との連携強化					
施策概要	隣接市町村などと連携し、公共交通サービスの向上と利用促進に向けた取り組みを検討します。 また、リニア中央新幹線の開業を見据え、隣接市町村と連携しながら、リニア三重県駅を核とした広域ネットワークの構築を検討します。					
事業	① 他市町村と連携したサービス向上の検討と利用促進活動の実施 ② 他市町村への新たな路線網の創出検討 ③ リニア三重県駅を核とした広域ネットワーク構築の検討					
事業主体	市民・地域	伊賀市	鉄道事業者	バス事業者	タクシー事業者	企業・関係団体等
	○	○	○	○	○	○
スケジュール	事業番号	短期 概ね3年	中期 概ね5年	長期 10年以上		
	①	継続的に実施				
	②	検討・調整	状況を踏まえ実施			
	③	検討・調整		状況を踏まえ実施		

鉄道で行く！

いこかの酒蔵探訪

伊賀 甲賀 亀山

～2つの酒蔵を巡る鉄道沿線の旅～

3/14(土) 9:10～15:40頃(雨天決行)

集合場所 JR関西線「佐那具駅」(受付 8:30～)

解散場所 近江鉄道本線「水口城南駅」

参加費 1,000円(酒蔵見学料としてイベント当日に集金します)
※別途、鉄道運賃(690円)と弁当代(1,200円)が必要となります。
 なお、弁当代は予約者のみ。

定員
40名

JR関西線沿線

森喜酒造

三重県伊賀市千歳41-2

米と麹、
水だけで醸す
全量純米酒

銘酒
「るみ子の酒」

試飲 &
酒蔵見学あり!

※運転転車と20歳未満の方は
試飲できません

参加者特典

オリジナルおちょよこ
プレゼント!

近江鉄道沿線

美富久酒造

滋賀県甲賀市水口町西林口3-2

100年を超えて、
伝統と革新を
繋ぐ近江の酒造

銘酒
「三連星(さんれんせい)」

三市の地元食材を使った**名物!いこか弁当**をご用意します
※いこか弁当をキャンセルする場合は3/5(木)までに必ずご連絡ください

1個1,200円
※参加申込時に
要予約

申込方法

右記二次元コードをスマホで読み取り参加申込みフォームよりお申込みください

お問い合わせ・お電話 ☎ 0595-22-9663 (平日9:00～17:00) [伊賀市公共交通課]

申込期間: 2月9日(月) 9:00～2月27日(金) 16:00

- 裏面の注意事項をご一読いただき、お申込みください。
- 申込受付は先着順とし、定員になり次第、締め切ります。

【主催】伊賀市・甲賀市・亀山市広域連携推進会議(公共交通部会)

伊賀市・甲賀市・亀山市の連携による鉄道イベントチラシ

施策目標 2-1 地域の交通手段の確保

重点施策

施策 6	地域の実情に応じた交通手段の検討				
施策概要	地域の移動ニーズを把握することで、適切な交通サービスを配置し、持続可能な地域の交通を検討します。				
事業	① 地域生活交通（行政バス）の再構築 （AI オンデマンド運行など定時定路線型以外の運行形態の検討） ② 交通空白地の解消 （公共ライドシェア等新しい運行形態の導入の検討） ③ 多様な交通手段の活用の検討 （スクールバス、福祉有償運送、企業などの送迎バスの活用検討）				
事業主体	市民・地域	伊賀市	鉄道事業者	バス事業者	タクシー事業者 企業・関係団体等
	○	○	○	○	○
スケジュール	事業番号	短期 概ね3年	中期 概ね5年	長期 10年以上	
	① ② ③	継続的に実施			

伊賀市と島ヶ原地域まちづくり協議会で協議を重ね、伊賀市初のデマンド型運行を令和5年度に導入しました。令和8年度からは、車両の小型化を行い、乗降ポイントを廃止した、ドア・ツー・ドアの乗合交通「しまタク」として改編しました。地域が主体で協議し、運行について考えることで、地域のニーズにあった移動手段の確保を進めることができます。



【使い方】
 島ヶ原地域内を移動したい場合
 → 「しまタク」を利用する
 ① 電話する(当日でも可。ですが予約の方が優先です)
 <電話>080-1392-0148
 (受付時間) 平日のみ、9時~16時
 行きたい場所と希望の時間を伝えてください。
 乗りも利用する場合は、あわせて伝えてください。
 ② やって来た「しまタク」に乗る
 ※タクシーではないため、他の利用者の方と乗り合わせる場合があります。
 ※1回あたり約200円(※)を支払う。
 (※) 1回あたりの運賃
 大人 200円 小児(小学生) 100円
 幼児(1歳から小学生未満まで) 両側の大人1人につき1人は無料。
 2人からは小児運賃。
 (身体障害者手帳をお持ちの場合は、提供により上記の半額運賃となります)



【基本情報】 令和8年3月31日受付開始!!
 <予約受付方法> 電話のみ。080-1392-0148
 <受付時間> 平日のみ、9時~16時。
 <運行時間>
 (島ヶ原地域内) 平日の7時30分から17時30分
 (島ヶ原から上野) 火曜・金曜のみ。
 予約がなければ運行しません。
 「しまタク」・乗り合いのタクシーのような乗り物です
 ① 運行時間は7時30分から17時30分、1回200円(大人の場合)
 の運行エリアは島ヶ原地域内、希望の乗降で乗り降りできます。
 ② 乗降時に「どこからどこへ、何時に行きたいか」を伝えてください。
 ③ 事前予約優先。当日受付も可能。※対応できない場合があります。
 「しまタク(シャトルバス)」・島ヶ原と上野駅間のバス
 ① 島ヶ原駅から川南を経由し、上野駅までの移動手段。1回500円(大人の場合)
 の前日までに予約が必要で、火曜日と金曜日のみの運行です。
 ※運行日が祝日の場合はお問い合わせください
 【基本時刻表】

	島ヶ原駅	川南	しもむら 駅前外	コメリ/イノ 上野駅	マツノ/イノ 上野駅	上野駅
第1便	9:00	9:02		9:25		9:25
第3便	13:00	13:02		13:25		13:25
第5便	15:00	15:02		15:25		15:25
第2便	10:15		10:25		10:48	10:50
第4便	14:15		14:25		14:48	14:50
第6便	16:15		16:25		16:48	16:50

問合せ先: 島ヶ原地域まちづくり協議会
 (島ヶ原地域交通専門部会)
 ☎ 0595-59-2554 F.A.X. 0595-59-2574
 e-mail shimataku@colic.ne.jp
 運行・受付は 島ヶ原地域まちづくり協議会です
 わからないことがあれば 気軽におたずねください!

施策 7	公共交通を地域で守る仕組みづくり					
施策概要	交通事業者だけでなくみんなで公共交通を支える仕組みを構築します。					
事業	① 地域の公共交通を考える組織づくりへの取り組み ② 公共交通の日常的な利用に関する理解促進や機運醸成への取り組み ③ 地域運行バス制度の充実と推進 ④ 地域が安心安全に運行できる体制の構築 ⑤ 運転手確保対策の検討 ⑥ 新たな安定的財源の確保に向けた検討					
事業主体	市民・地域	伊賀市	鉄道事業者	バス事業者	タクシー事業者	企業・関係団体等
	○	○	○	○	○	○
スケジュール	事業番号	短期 概ね3年	中期 概ね5年	長期 10年以上		
	①					
	②	継続的に実施				
	③					
	④					
	⑤	調査・研究		調査結果を踏まえた 検討・展開		
	⑥					

「かんべ北斗号」は、地域で運行協議会を立ち上げ、ルートやダイヤ等、すべて自分たちで決めて運行している、地域運行バスです。市の補助制度を活用し、運行事業者と協力しながら、令和8年度には安定的な運行継続のため運賃改定するなど、地域が主体となって公共交通を支える仕組みを構築しています。

「フリー乗降制」について

～国道422号・165号線を除く運行区間がフリー乗降です。

フリー乗降制度とは
指定された区間に限り、バス停留所以外の場所でもバスの乗り降りが自由に行える制度です。

フリー乗降区間
フリー乗降区間は、国道422号・165号線を除く運行区間です。
※運行ルート図参照してください。

フリー乗降制度を利用される方へのお願い

- 停留所以外で乗るとき
 - ・バス進行方向の左側の道路の広い安全な場所で、バスに向かって手を上げて合図してお知らせください。（狭い場所や反対車線側で手をあげた場合は、停車しません。）
 - ・最寄りの停留所の発車時刻表を参考に、余裕を持ってお待ちください。
- 停留所以外で降りるとき
 - ・早めに降りる場所をバスの運転手に口頭でお知らせください。
 - ・車内転倒防止のため、降車の際はバスが完全に停車するまで降を立たないようにしてください。
 - ・交通の支障になる場所では、停車位置を変更させていただく場合があります。
- その他
 - ・停留所が近くにあり方や停留所まで移動が可能の方は、停留所で乗降くださるようお願いいたします。
 - ・道路交通法等で駐停車が禁止されている場所や停車すると危険な狭い道路及び交差点付近、橋梁の上などは乗降できません。
 - ・運転手が危険と判断した場合は、乗降できない場合があります。

フリー乗降制ご利用方法

● 停留所以外で乗るとき
左側の道路の広い安全な場所で手を上げて合図



● 停留所以外で降りるとき
早めに運転手に口頭で



● その他
バスの直前・直後の横断は、非常に危険です。狭い道路、交差点付近、橋梁の上などは乗降できません。



神戸地区 コミュニティバス かんべ北斗号 運行時刻表

乗車定員9名

令和4年4月1日より伊賀市青山支所の移転により一部運行経路及び時刻が変更になります！
～令和3年4月より本格運行に移行しています～

株式会社 キタモリ

輸送タクシー・福祉バス・送迎バス・貸切バス・観光バス・ロードサービス・介護タクシー・警備業務等を通じて地域とともに成長します。

☎0120-190-170
☎0595-38-1524(代)

野菜ソムリエのいる店
おしんきも提案します
食の安全・安心・信頼をお届けします
人と人とのふれあいを大切にします

JAIいがふるさと

本店 三島伊賀市平野西町1番1号 1h: 0595-24-5111
とれたて部でんこ 三島伊賀市平野西町1番1号 1h: 0595-21-0831

SEIWA
伊賀青山店

住所 三島伊賀市青山山形200-2
TEL 0595-53-0126

お問合せ

神戸地区地域運行バス（かんべ北斗号）運営協議会
事務担当 神戸地区市民センター ☎0595-38-1300
かんべ北斗号運行事業者
株式会社キタモリ 東合事業部 ☎0595-38-1524(代)

かんべ北斗号パンフレット

50

施策 8	伊賀鉄道の支援・魅力づくりの継続・強化					
施策概要	伊賀鉄道が移動手段だけでなく、伊賀市の重要な資源であることを市民の方に認識してもらえるよう利用促進や魅力づくりを進めます。					
事業	① マイレール意識向上に向けた情報発信 ② イベント等の企画・実施 ③ 車内装飾・グッズ作成販売 ④ SNS 等による広報 ⑤ 駅・車両の利活用促進 ⑥ 枕木・つり革のオーナー制度、ネーミングライツの活用 ⑦ クラウドファンディングの検討・実施					
事業主体	市民・地域	伊賀市	鉄道事業者	バス事業者	タクシー事業者	企業・関係団体等
	○	○	○			○
スケジュール	事業番号	短期 概ね3年	中期 概ね5年	長期 10年以上		
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦	①～③は短期、④～⑦は中期に実施され、④～⑦は長期にわたって継続的に実施される。				

2025.5月号
忍者鉄道通信

発行 伊賀鉄道活性化協議会
 事務局 伊賀市公共連携課
 TEL: 0565-22-9663
 FAX: 0565-22-9664
 e-mail: kankai@271.gak.jp

5月3日(土・祝)「伊賀線まつり2025」大盛況でした!

5月3日(土・祝)に「伊賀線まつり2025」が伊賀鉄道上野市車庫にて開催されました。定番の軌道自転車体験や運転シミュレーション体験、新コーナー「洗車体験」のほか、出店している鉄道各社から難問・珍問を集めた「鉄道クイズショー」など多様な催しが行われました。前日は大雨で心配されましたが当日は快晴となり、過去最高タイとなる3,500人の方にご来場いただき、会場や周辺は大変多くの人で賑わいました。

今回は、その「伊賀線まつり2025」の様子を写真でお届けします!

↑ 開催前には駅前まで長蛇の列ができました

↑ かるたやクイズなど、会場は大賑わい

↑ 軌道自転車では貸出しない車庫内へ!

↑ 近鉄や伊賀鉄道の手作りのプラレール®車両に興味津々です

↑ 各社からの鉄道クイズにみんなで挑戦しました!

Q 忍者線クイズ

伊賀線は1916年に開業し今年で109年となります。そこで109にちなんで、現在、伊賀線を走っている東急車両に関する問題です。伊賀鉄道のそれぞれの車両の前面をよく見ると、車両によって窓やライトの形が異なることに気づきます。では、この形の違いはなぜ発生したのでしょうか?

① 車両デザイナーの意向で、様々な形の車両をつくりかかったから。
 ② 余っている車両を各地から寄せ集めたら、バラバラの形になってしまった。
 ③ 伊賀鉄道に来る際に様々な改造をした結果、バラバラの形になった。

こたえは裏面へ→

忍者鉄道通信 (2025年5月号)



伊賀線ギャラリー列車の運行

施策 9	バス交通の支援・魅力づくりの継続・強化				
施策概要	路線バスが単なる移動手段でなく、伊賀市の重要な資源であることを市民の方に認識してもらえよう利用促進や魅力づくりを進めます。				
事業	① バスイベント等の企画・実施 ② バスの乗り方教室の開催				
事業主体	市民・地域	伊賀市	鉄道事業者	バス事業者	企業・関係団体等
	○	○		○	○
スケジュール	事業番号	短期 概ね3年	中期 概ね5年	長期 10年以上	
	①	企画	状況に応じて実施		
	②	継続的に実施	事業を拡大		



バスの乗り方教室の様子（青山小学校）

施策 10	小・中学生や高校生を対象としたモビリティ・マネジメントの展開					
施策概要	若年層のうちから公共交通に触れる機会を積極的に増やし、大人になってからも利用してもらうため、小中高生に向けた「モビリティ・マネジメント」を実施します。					
事業	① 伊賀鉄道通学定期券等購入費助成制度の実施 ② 高校生との連携によるイベント企画・実施 ③ 小中学校におけるモビリティ・マネジメント教育の実施					
事業主体	市民・地域	伊賀市	鉄道事業者	バス事業者	タクシー事業者	企業・関係団体等
		○	○	○		○
スケジュール	事業番号	短期 概ね3年	中期 概ね5年	長期 10年以上		
	①	→ 継続的に実施				
	②	→ 継続的に実施				
	③	調整・内容検討	→ 状況により実施			

事例 滋賀県甲賀市の交通環境学習

甲賀市では、市の職員・公共交通運行事業者が学校に伺い、実際のバス車両を学校に持ち込む出前講座や、電車の乗り方の座学や実習等を行っています。

乗車体験や乗車マナーや切符の買い方等を学習できる教材などを通じて、各学年の授業のねらいに合わせた学習を展開しています。



鉄道すごろく



車椅子での乗車体験

出典：甲賀市ホームページ

施策 11	市内事業所を対象としたモビリティ・マネジメントの展開				
施策概要	現在のマイカー利用から公共交通への転換を図るため、市内事業所へのモビリティ・マネジメントを実施します。				
事業	① 利用促進活動の実施 ② 企業等との連携強化				
事業主体	市民・地域	伊賀市	鉄道事業者	バス事業者	タクシー事業者 企業・関係団体等
スケジュール	事業番号	短期 概ね3年	中期 概ね5年	長期 10年以上	
	① ②	継続的に実施			

事例 岡山県岡山倉敷都市圏におけるモビリティ・マネジメント施策

岡山国道事務所、岡山県、岡山市、倉敷市が連携し、渋滞緩和やCO2排出量の削減等、クルマに頼らないまちづくりを目指して、事業所に対し、公共交通や徒歩、自転車での通勤を、専用ホームページ、チラシ、デジタルサイネージ等により幅広く呼び掛けています。

参加事業者は、健康ポイント等のポイントの付与や、アワード表彰等による地域貢献活動PRといった特典があります。

スマート通勤おかやまのススメ

“スマート通勤おかやま”とは？

○「スマート通勤おかやま」は、岡山の渋滞削減やCO2削減、クルマに頼らないまちづくりを進めるために、公共交通機関への転換やマイカーでの時差出勤等を行う取り組みです。

○マイカーでないと通勤できない方も、産前産後で約10日は、数千名が一斉に「スマート通勤」に取り組みます。

参加することでメリットがいっぱい！

① 関連イベント等との連携により、ポイントや商品ゲットのチャンス！

○健康ポイント事業「OKAYAMAハルプロジェクト」[くらちゃん健康アプリ]と「スマート通勤おかやま」が連携し、スマート通勤おかも期間中に各事業のポイントが獲得できる取組を実施します。

○また、スマート通勤おかやま参加者は、岡山県が実施する「公共交通利用促進キャンペーン」のデジタルスタンプラリーにおいて、抽選の当選確率が2倍になります。

②アワード表彰等により、貴事業所の地域貢献活動としてのPRに！

部門名	選定基準
大賞	総合的に最も優れた事業所
優秀賞	大賞に次いで優秀な事業所（岡山県、倉敷市、その他）
スマート健康賞	自転車・徒歩での通勤が多い事業所
公共交通活性化賞	公共交通での通勤が多い事業所
勤務からスマートで賞	勤務のスマート通勤が多い事業所
スマート転換賞	同一事業所にマイカー通勤から転換が多い事業所
スマート新入賞	今年初めて参加者が多い事業所

③ スマートな時間の使い方です仕事の効率もアップ！

○スマート通勤を地域全体で取り組むことで、過去に参加した方々も多くの方が、リフレッシュ効果や仕事の効率アップ等の効果を実感されています。

○また、スマート通勤で空いた時間をお得に使えるように、「GOOD ROUTE」のHPで「朝活・夕活ができる施設の紹介」や、一部店舗で使えるクーポンの配布などを行っています。

このほかにも様々なメリットがあります。詳しくは「スマート通勤おかやま」で検索！

スマート通勤おかやまへの参加方法は？

○事業所登録（初年度のみ）を行った上で、期間中のスマート通勤実施結果を教えてください。

○参加登録や実施結果等の記入は、WEB上でも簡単にできます。

事業所登録 | スマート通勤実施 | 結果報告 | スマート通勤おかやま | 検索

https://smart-okayama.net/

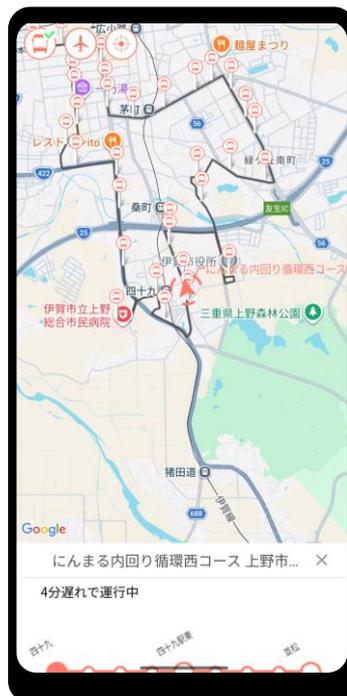
事業所向け資料

出典：スマート通勤おかやまホームページ

基本方針 3 | 分かりやすく、便利な、利用につながる公共交通サービスの充実

施策目標 3-1 利用しやすさの向上に向けた分かりやすい路線・乗換案内の充実

施策 12	分かりやすい情報の発信				
施策概要	利用に向けた認知度の向上や利用する際の不安の解消のため、分かりやすい情報の発信に取り組みます。				
事業	① わかりやすい時刻表・案内板の作成 ② 外国人や観光客のため多言語化 ③ GTFS-JP データ整備による検索対応 ④ リアルタイムの運行情報発信 ⑤ SNS や動画等での情報配信強化 ⑥ 伊賀市公共交通マップの作成				
事業主体	市民・地域	伊賀市	鉄道事業者	バス事業者	タクシー事業者 企業・関係団体等
		○	○	○	
スケジュール	事業番号	短期 概ね3年	中期 概ね5年	長期 10年以上	
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	作成		必要に応じて更新	



コミュニティバス「にんまる」の位置情報の発信

施策目標 3-1 利用しやすさの向上に向けた分かりやすい路線・乗換案内の充実

施策 13	利用しやすい運賃制度の構築				
施策概要	誰もが利用しやすい公共交通を目指して、利用しやすい運賃制度を検討します。				
事業	① 観光利用の1日フリー券の利用促進 ② 回数券・定期券等のデジタル化 ③ 交通系 IC カードの販売促進 ④ VISA タッチ方式の導入検討				
事業主体	市民・地域	伊賀市	鉄道事業者	バス事業者	タクシー事業者 企業・関係団体等
		○	○	○	
スケジュール	事業番号	短期 概ね3年	中期 概ね5年	長期 10年以上	
	①	② 継続的に実施 ③ ④ 検討 → 検討結果を踏まえた事業の展開			
	②				
	③				
	④				



アプリで購入・利用できる伊賀鉄道一日フリー乗車券

施策目標 3-2 乗り継ぎしやすさの向上に向けた便利な乗継環境の充実

施策 15	鉄道駅の結節機能の向上					
施策概要	駐車場や駐輪場の整備、通勤通学での利用を考慮し、鉄道駅の結節機能の向上に向けた取組みを検討します					
事業	① パークアンドライド駐車場の利用促進と新たな整備検討 ② 既存駅の駐車場や駐輪場の管理 ③ 通勤・通学バス導入に向けた取組み					
事業主体	市民・地域	伊賀市	鉄道事業者	バス事業者	タクシー事業者	企業・関係団体等
	○	○	○	○		○
スケジュール	事業番号	短期 概ね3年	中期 概ね5年	長期 10年以上		
	① ② ③	継続的に実施 				

伊賀鉄道利用促進のひとつとして、パークアンドライド駐車場の整備を進めています。市部駅に利用者専用の無料駐車場がある他、上野市駅周辺の市営白鳳門駐車場、市営だんじり会館駐車場、市営城北駐車場も、定期券利用者に限り無料で駐車可能です。

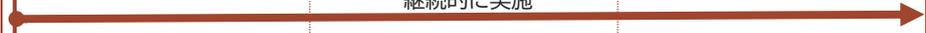


パークアンドライド駐車場（市部駅）



駐輪場の整備（茅町駅）

施策目標 3-2 乗り継ぎしやすさの向上に向けた便利な乗継環境の充実

施策 16	安全・安心・快適な利用環境整備					
施策概要	誰もが安心して利用できる公共交通を目指して、バリアフリーや安全対策等に取り組みます。					
事業	① 駅・車両のバリアフリー化、安全対策 ② 駅周辺の環境整備・防犯対策 ③ 駅舎の利活用の検討					
事業主体	市民・地域	伊賀市	鉄道事業者	バス事業者	タクシー事業者	企業・関係団体等
	○	○	○	○		○
スケジュール	事業番号	短期 概ね3年	中期 概ね5年	長期 10年以上		
	① ② ③	継続的に実施 				



駅舎の美化活動（茅町駅）



駅の多目的トイレの整備（茅町駅）

施策 17	二次交通の充実による公共交通の利用促進や利便性向上				
施策概要	二次交通との連携によるきめ細やかな交通サービスを構築し、利用しやすい公共交通に向けて取り組みます。				
事業	① シェアサイクル等実施事業者との連携 ② グリーンスローモビリティの調査・研究				
事業主体	市民・地域	伊賀市	鉄道事業者	バス事業者	タクシー事業者 企業・関係団体等
		○	○	○	○
スケジュール	事業番号	短期 概ね3年	中期 概ね5年	長期 10年以上	
	①	→ 随時連携 →			
	②	→ 調査・研究 →	→ 調査結果を踏まえた検討・展開 →		

事例 鳥取県倉吉市 グリーンスローモビリティの運行

鳥取県の倉吉市では、地域住民の暮らし良さと、観光客の周遊・滞在の利便性向上に向けたグリーンスローモビリティの本格運行を2025（令和7）年7月より開始しました。

平日は買い物や通院に利用できるルート、土日祝日は観光スポットを中心としたルートで運行しています。



グリーンスローモビリティ車両

出典：倉吉市ホームページ

施策目標 3-3 地域公共交通で外出しやすい利用につながる環境づくり

施策 19	タクシー業者との連携強化				
施策概要	タクシー業者と連携して、持続可能な公共交通サービスとして維持できるように取り組みます。				
事業	① 新たなサービス（アプリ、配送等）の調査・研究 ② 日本版ライドシェアの導入の検討				
事業主体	市民・地域	伊賀市	鉄道事業者	バス事業者	タクシー事業者 企業・関係団体等
		○			○
スケジュール	事業番号	短期 概ね3年	中期 概ね5年	長期 10年以上	
	①	調査・研究	調査結果を踏まえた検討・展開		
	②	継続的な実施			

施策目標 3-3 地域公共交通で外出しやすい利用につながる環境づくり

施策 20	新たなモビリティサービスの積極導入				
施策概要	MaaS を推進する体制づくりや新たなモビリティサービスの導入可能性を検討します。				
事業	① MaaS に関する調査・研究 ② 自動運転サービスなど新たなモビリティサービスの導入検討				
事業主体	市民・地域	伊賀市	鉄道事業者	バス事業者	タクシー事業者 企業・関係団体等
	○	○	○	○	○
スケジュール	事業番号	短期 概ね3年	中期 概ね5年	長期 10年以上	
	①	調査・研究	調査結果を踏まえた検討・展開		
	②	調査・研究		調査結果を踏まえた検討・展開	

第 5 章 計画の推進体制

5-1 事業の推進体制

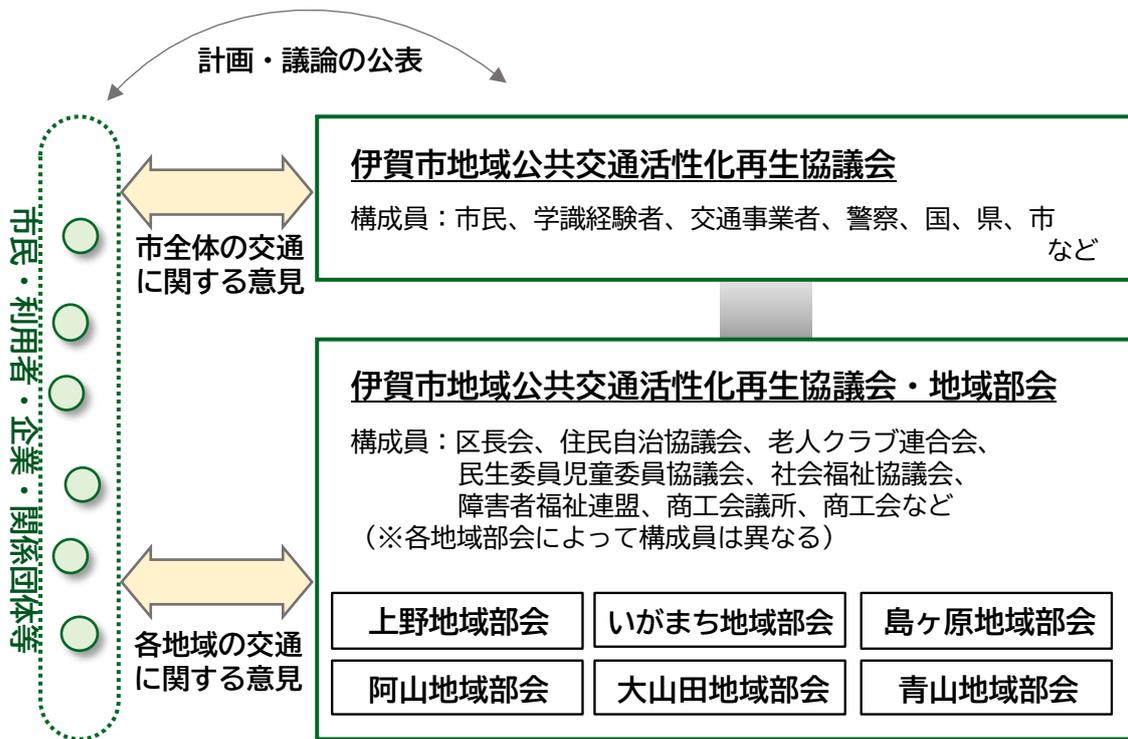
(1) 事業の推進体制

計画の評価・検証、改善策の検討は、伊賀市地域公共交通活性化再生協議会が主体となって実施します。

また、計画の理念で掲げる「すべてのひとが幸せにらせる 伊賀市の地域公共交通～みんなで支える みんなが気軽に利用できる ネットワークづくり～」の実現に向けては、市民・地域、伊賀市、交通事業者、企業・関係団体等がそれぞれの役割分担のもと、一体となって取り組むことが必要です。

市民、利用者、企業・関係団体等から、地域公共交通に対して様々な意見等が寄せられます。これら意見等については、各交通事業者と市で共有するとともに利用状況などのデータ分析・事業の進捗状況把握・効果分析を行い、事業内容の改善点などを具体的に検討します。

加えて、伊賀市地域公共交通活性化再生協議会では、6つの地域部会を設けており、それぞれ地域の代表の方が参画しています。そのため各地域に関する意見については、地域部会にて集約し、伊賀市地域公共交通活性化再生協議会と連携し、対応策などの検討を行います。



議論の公表

図 5-1 市民・利用者と事業者・組織体の関係イメージ

(2) 各主体の役割

「市民」・「地域」・「企業・関係団体等」の役割

- 「市民」は、自らの交通行動が地域に及ぼす影響を理解し、クルマのみに依存するのではなく、公共交通が利用可能な場合には積極的に公共交通を利用するなど、「マイルール・マイバス」の意識を持ち、一人ひとりが自発的かつ節度ある交通行動を選択することが求められます。また、自身が直接利用していない場合であっても、家族の利用や将来的な利用の可能性などを通じて、公共交通が生活の質の向上や安心の確保に寄与していることを認識し、公共交通を支える取組みへの理解と協力が期待されます。
- 「地域」は、住民や関係者が主体となり、地域内の移動実態や課題を共有しながら、既存の交通手段を見直し、地域の特性やニーズに適した交通手段について一緒になって考え、実現に向けて取り組む役割を担います。公共交通を「地域の財産」として捉え、利用促進や支援、合意形成などを通じて、持続可能な地域交通の形成に参画することが求められます。
- 「企業・関係団体等」は、一市民としての役割を担うとともに、交通事業者や行政と連携し、公共交通を盛り上げる取組みを推進する役割を担います。通勤・通学・通院など日常のあらゆる移動において公共交通を利用しやすい環境づくりを支援するとともに、地域や利用者の意見を集約し、交通事業者や市へ伝えるなど、公共交通の維持・充実に向けた多様な役割が期待されます。

「交通事業者」の役割

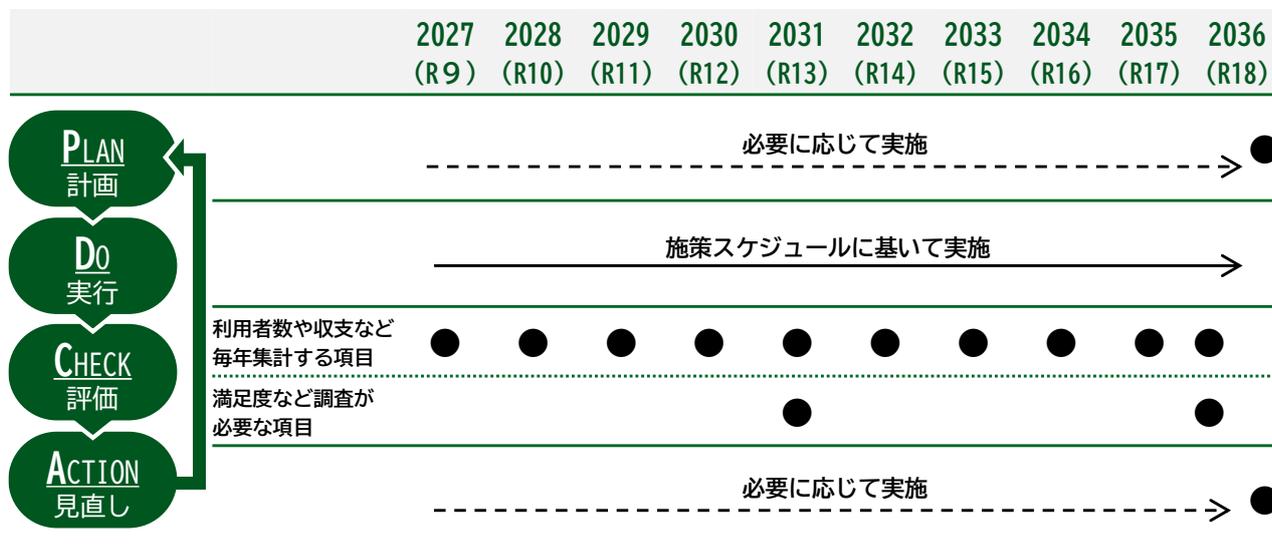
- 「交通事業者」は、誰もが安全で円滑かつ快適に移動することができるような輸送サービスを提供するための交通施設の整備及びその他必要な措置を講ずるものとします。
- 事業の推進や、地域が主体となった交通をつくっていく段階においては、伊賀市や地域住民との交流を密に行い、事業者としてのノウハウを活用した交通サービスの提案を行うなど、積極的に地域交通の維持、発展に参画していくことが期待されます。
- 計画や事業を評価・改善していくため、運営している各路線の利用状況のデータ収集・分析を行うとともに、公共交通を取り巻く環境の変化や、利用者の声に、迅速かつ適切に対応すること、また、交通事業者から積極的な情報発信が求められます。

「伊賀市」の役割

- 「伊賀市」は、誰もが安全で円滑かつ快適に移動することができるよう、広域的・総合的な視点から、交通事業者や地域とともに公共交通路線の確保・維持・活性化に取り組みます。
- 伊賀市内の地域公共交通の多面的な価値を幅広く発揮するため、一定の財政支援を継続的に実施し、様々な行政分野に資する地域公共交通としていきます。
- 行政だからこそできる広報媒体等を活用し、情報発信・利用啓発に努めます。
- 事業の推進にあたっては、事業主体と連携し、各事業の進捗状況の整理や効果分析を行っていくとともに、伊賀市地域公共交通活性化再生協議会、伊賀市地域公共交通活性化再生協議会・地域部会における議論を経て、施策の具現化に努めます。

5-2 計画の評価スケジュール

事業進捗の確認については、伊賀市地域公共交通活性化再生協議会にてあらゆる側面からデータ分析を行い、多面的な評価を実施します。また、計画の中間年となる 2031（令和 13）年度については、計画全般の評価を行うとともに、必要に応じて計画の見直しを図っていきます。



用語解説

用語	内容
あ行	伊賀流多核連携型都市 都市マスタープランの将来都市構造として示されている。都市拠点とネットワークに、伊賀らしい歴史・文化、自然の継承、地域産業の振興による活力向上及び安全・安心の要素を加えた構造としている。また、地域拠点に地域包括ケアシステムの視点を加えることで、地域共生社会との連携もめざす。
か行	観光入込客数 入込客とは地域に訪れた来訪客のこと。主に自治体等が地域に訪れた観光客数を「観光入込客数」という。
	関西本線活性化利用促進三重県会議 令和4年6月に三重県、亀山市、伊賀市、西日本旅客鉄道株式会社で組織。 名古屋・大阪間を結ぶ関西本線のうち、西日本旅客鉄道株式会社が三重県内で運行する区間の利用促進・活性化を目的とする。 令和7年8月には、2つの柱として以下の合意事項を締結し、取り組みを進めている ・合意事項1 「関西方面からの誘客・利用促進」による沿線活性化 ・合意事項2 JR 関西本線の維持・活性化に関する議論
	ギャラリー列車 車内空きスペースを有効利用し、沿線に園児等の絵などを掲示する列車のこと。
	居住誘導区域 伊賀市立地適正化計画において設定した、上野市街地の再生と地域の拠点づくりのために居住の誘導を図る区域のこと。居住誘導区域では公共施設の集約・再編と公共交通ネットワークの方針との連携を図っている。
	クロスセクター効果 地域公共交通が有する多面的な効果のことであり、地域公共交通が廃止された場合に必要となる、多様な行政分野の施策費用から算出されるもの。
	広域的拠点 伊賀市都市マスタープランにおいて位置づけた、多様な都市機能が集積し、市町を超えた広域から多くの人やモノが集まる公共交通の結節点であり、大規模集客施設や公共公益施設等が集積する地区のこと。
	公共交通サービス 公共交通ネットワークを構成する個々の交通手段や路線が提供する運行内容や利用条件のこと。 運行本数、運行時間帯、運賃、車両、利用方法など、「具体的な中身・水準」を示す概念。
	公共交通ネットワーク 鉄道、バス、デマンド交通、タクシー等の路線や拠点、乗り継ぎ関係を組み合わせた、地域全体の公共交通のつながり・構造のこと。 どこからどこへ、どのように移動できるかという「面的・全体的な配置」を示す概念。
	交通空白地 徒歩圏内に利用可能な公共交通（鉄道駅やバス停等）が存在せず、日常的な移動に公共交通を利用しにくい地域。

用語	内容	
さ行	収支率	収支の実態を表す指標で、以下の式により算出する。 本計画においては、「経常収支率」を指し、100%以上であれば収益があがっていることとなる。 収支率＝経常収益÷経常費用×100
た行	第3セクター	国や地方公共団体と民間企業との共同出資で設立される事業体のこと。
	地域拠点	伊賀市都市マスタープランにおいて位置づけた、地域に居住する人が、徒歩または公共交通等により到達可能な、「支所」を核に買い物や診療などの日常サービスを受けられる都市機能の集積を図る地区、広域的拠点へのネットワークの拠点となる地区のこと。
	地域間幹線系統	主に鉄道駅や都市拠点などを結び、比較的長い距離を高い頻度で運行する、地域公共交通ネットワークの骨格となる路線。 通勤・通学や都市間・拠点間の移動を担い、速達性・定時性を重視したサービスを提供する。
	定期乗車人員	定期乗車人員は定期券の利用者のこと。定期券を利用しない利用者は定期外乗車人員という。
	定時定路線型	バスや鉄道などの公共交通機関が、決まった時間、決まった路線で運行を行うこと。
	鉄道事業再構築事業	事業の継続が困難となり、又は困難となるおそれがあると認められる旅客鉄道事業について、事業構造の変更等により経営の改善を図るとともに、地方公共団体等の支援を受けつつ、資産保有の費用負担を軽減し、事業の維持を図るもの。
	デマンド運行	決まった時間・決まった路線で運行する定時定路線型ではなく、利用者の需要（demand）に応じてバスやタクシー等の車両がその場所へ寄って利用者に乗せて目的地へ向かうもの。
	都市機能誘導区域	伊賀市立地適正化計画において設定した、上野市街地の再生と地域の拠点づくりのため都市機能施設の維持誘導を図る区域のこと。都市機能誘導区域では公共施設の集約・再編と公共交通ネットワークの方針との連携を図るとしている。
は行	パークアンドライド	自宅からバス停や駅などの近くに整備した駐車場までマイカーで行き、バスや鉄道に乗り換えて目的地まで移動する方法。
	バリアフリー	日常生活の中で存在する障壁を取り除くことで、生活しやすくすること。
	フィーダー系統	住宅地や集落などから幹線系統へ利用者を集めることを目的とした、支線的な路線。 鉄道駅や幹線バスとの乗り継ぎを前提とし、地域の日常的な移動を支える役割を担う。
	副次的拠点	伊賀市都市マスタープランにおいて位置づけた、広域的拠点を補完し、特に生産機能・研究機能等産業系機能の拠点となる地区のこと。

用語	内容	
は行	福祉有償運送	道路運送法79条に基づき、NPO法人等が、単独で公共交通機関を利用することが困難な障がい者等の会員に対して、自家用自動車を使用して、自宅発着で目的地までの個別輸送を行うサービス。
ま行	マイレール・マイバス意識	鉄道・バスの必要性と重要性を行政、関係機関、住民があらためて認識し、自ら地域の鉄道・バスを守り育てていこうとする意識のこと。
	モビリティ・マネジメント	渋滞や環境、あるいは個人の健康等の問題に配慮して、過度に自動車に頼る状態から公共交通を『かしこく』使う方向へと自発的に転換することを促す、一般の人々や様々な組織・地域を対象としたコミュニケーションを中心とした持続的な一連の取り組み。
や行	ユニバーサルデザイン	障がいの有無や年齢、性別、人種などにかかわらず、誰もが利用しやすいように製品やサービス、環境をデザインする考え方のこと。
英字	<small>エーアイ</small> AI オンデマンド運行	基本的には利用者の需要（demand）に応じて運行する点はデマンド運行と同様だが、AI が予約情報や利用実績、時間帯ごとの需要傾向などを分析し、配車や経路、乗合の組み合わせを自動で最適化することで、より効率的に利用者に乗せて目的地へ向かう運行方式。
	<small>ジーティーエフエス-ジェーピー</small> GTFS-JP データ	GTFS-JP とは、バスや鉄道の運行時刻、路線、停留所の位置などの情報を、全国共通の形式でまとめたデータのこと。このデータを使うことで、地図アプリや時刻表サービスに、正確な公共交通情報を提供することができます。
	<small>マース</small> MaaS	ICT 等を活用し、マイカー以外のすべての交通手段によるモビリティ（移動）を1つのサービスとして捉える新たな「移動」の概念のこと。
	<small>ピーディーシーエー</small> PDCA サイクル	業務プロセス管理手法の一つで、 <small>プラン</small> Plan（計画）→ <small>ドゥー</small> Do（実行）→ <small>チェック</small> Check（評価）→ <small>アクション</small> Action（改善）という4段階の活動を繰り返し、継続的に改善を行うこと。